

「五所川原市地域公共交通網形成計画」(案)についての意見募集結果について

市が実施しました「五所川原市地域公共交通網形成計画」(案)策定にあたっての意見募集に対し、多数のご意見をいただき、誠に、ありがとうございました。

いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

平成29年2月20日から平成29年3月21日まで

2 募集方法

市のホームページ(<http://www.city.goshogawara.lg.jp/>)に案の概要等を掲載したほか、市企画課、市情報公開コーナーに備え付けました。

意見提出は、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法によることとし、提出言語は日本語としました。意見提出にあたっては、提出者の氏名・住所(法人等の場合は、その名称・事務所所在地等の連絡先)の明記を条件としました。

3 提出された意見

3人の方から延べ13件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	実施段階検討	反映困難	その他	合計
0件	6件	3件	0件	4件	13件

「文章修正等」・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

「記述済み」・・・既に記述済みのもの。

「実施段階検討」・・・計画の実施段階で検討又は対応すべきもの。

「反映困難」・・・反映が困難なもの。

「その他」・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

意見の内容とそれに対する市の考え方及び意見を考慮した結果決定した案は、次のとおりです。なお、類似の意見が複数あった場合は、まとめて1件として、公表を行い、市の考え方を回答しておりますのでご了承ください。

また、賛成とのみ記載された意見が3件ありましたが、公表した案自体が市の考え方を示していますので、改めて賛否についての市の考え方は公表しません。

(提出された意見の内容とそれに対する市の考え方)

No	提出された意見	市の考え方
1	<p>将来のまちづくりに交通、通信は不可欠な要素です。地域交通といえども地域振興、まちづくりの視点は必要です。</p> <p>駅前は、機能、歴史性等の観点から、当市にとっては単なる交通拠点でなく、情報発信を担う五所川原の「顔」となる場所と考えます。</p>	<p>(記述済み)</p> <p>本計画は、あらゆる交通資源を活用し、地域社会の維持・地域力向上を目指し、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通ネットワークを構築するため策定いたしました。</p> <p>五所川原駅周辺は、交通拠点としての乗継機能を有するだけでなく、まちづくりの拠点としての機能も備えた交流の要となるものと考えております。</p>
2	<p>域内の人口減少、経済縮小化にあって現状維持では減少です。改善には域外(国外含)との交流人口・交通増しかなく、それによって域内交通の維持に繋がると思います。</p>	<p>(記述済み)</p> <p>本計画では、公共交通利用者数の維持を目標指標の1つとして用いております。この数値は、人口減少による影響を勘案した将来推計に基づく人数としており、本目標を達成することは、利用率の増加を意味することになります。</p> <p>もちろん、施策に利用向上策を掲げ、交流人口増加による利用者数の増加もあわせて目指しております。</p>
3	<p>公共交通の定義はなんですか。バス、鉄道は理解できますが、その他に分類されるタクシー、薬局バス、患者送迎バス、スクールバス、行政連絡バス、湯っこバスも公共交通として捉え、公共交通の定義を拡大するべきではありませんか？上記の交通が運行されている事は、それこそ「小さな交通」のニーズと思われれます。</p>	<p>(記述済み)</p> <p>公共交通の定義については、本計画中の2ページで「計画の対象」として記載しており、ご意見の中に列挙されている交通手段についてはその中の「その他」に分類され、公共交通の一端を担うものであると捉えております。再編にあたっては、地域の実情にあわせて、最も効率的で持続可能な公共交通体系となるよう検討を行うこととしております。</p>
4	<p>高齢者、免許返上者等、車運転しない人の移動現状は自家用車相乗りがあると思います。いわゆる「ライドシェア(相乗り)」を地域限定で法制化するべきだと思います。これに関連しタクシー業界の規定の枠を超えた新たなビジネス分野のチャレンジに期待します。</p>	<p>(記述済み)</p> <p>地域内交通の手段の1つとして乗合タクシー導入を含めた検討を行うこととしております。地域の実情にあわせた交通手段を検討していきます。</p>
5	<p>施策①の南北軸の再編については、行政連絡バスを無料にしているため、競合する路線バス・鉄道のお客をとっていることになるので、見直しが必要だと思えます。バスや鉄道が走っていない時間はいいとして、津軽鉄道と接続できる場合は、市浦総合支所から中里駅で接続するような工夫が必要だと思えます。</p>	<p>(記述済み)</p> <p>南北軸は、市の公共交通の骨格となる重要な軸であり、維持・強化を図る施策として施策①を掲げております。持続可能な交通体系を構築するため、多様な交通モードの統合・整理による効率化を図るとともに、利便性向上と利用者負担の適正化についてもあわせて検討していくこととしております。</p>

6	<p>いろいろなアイデアを拾い上げるためにも、行政、企業、市民、学識者を入れた継続的な協議会を組織するべきだと思います。</p>	<p>(記述済み)</p> <p>本計画の策定につきましては、学識経験者、交通事業者、市民、行政などで構成する地域公共交通活性化協議会による継続的な会議を基本に、必要に応じて関係者による専門部会を開催しながら施策の推進を図ることとしております。</p>
7	<p>少子高齢化により高齢者が増えていく中で、高齢者が自分で通院できるような公共交通の維持が必要と思います。高齢者の安全な乗換えのため、五所川原駅の利便性、安全性、バリアフリー化を向上させる必要があると思います。</p> <p>具体的提案内容は次のとおりです。</p> <p>①観光バス・送迎車の乗降場所確保 ②タクシー待機場所確保 ③駅の東西を繋ぐ歩道橋の設置 ④駅ホーム階段へのエスカレータ設置 ⑤駅周辺の屋根付き道路の整備</p>	<p>(実施段階検討)</p> <p>少子高齢化の中で、車を利用できない高齢者や高校生等の生活の足の確保は重要なことと考えており、五所川原駅の利便性向上についても、目標の1つに「交通拠点の設定と乗継利便性の向上」を掲げ、交通拠点として位置づけた五所川原駅は、安全・快適かつわかりやすい環境整備等によって機能強化を図ることとしております。</p> <p>また、ご意見の具体的提案の内容については、まちづくりの視点も加えながら、再編に係る検討の中で参考にさせていただきたいと思っております。</p>
8	<p>ライドシェア、小さな交通に対応するためには、高齢者には使い慣れないものの、ICTの進捗、トータル経費、細かなニーズ対応を考えるとスマホ等ICTの活用が必須と考えます。</p>	<p>(実施段階検討)</p> <p>利便性の向上のため、ICTの活用は有効なことと認識しております。地域の実情にあわせた交通手段の検討とあわせて検討を行っていききたいと思います。</p>
9	<p>施策の中で弘南バスと津軽鉄道のダイヤ調整により利便性向上を検討すると思いますが、存続するために約30年かけて設備や人員を節約してきた民間事業者の現状では不可能だと思います。行政が設備投資または所有するなど、将来の公共交通の存続のためには、今までにない考え方や方法も必要になると思います。</p>	<p>(実施段階検討)</p> <p>本計画の策定にあたって交通関係事業者が構成員となる公共交通活性化協議会で協議をおこなっております。</p> <p>時刻表調整については、事業者が可能な範囲で検討を行い、事業者、利用者双方にとって持続可能で、かつ利便性が高い公共交通を目指し、これまでの枠にとらわれることなく、あらゆる交通モード、地域の実情を勘案しながら検討していきます。</p>
10	<p>地方小都市では希少な民鉄津軽鉄道は国内外から羨望評価が高く、観光資源、地域資源であって、単なる地域内鉄道ではないため、更なる活性化策が必要と思います。</p>	<p>(その他)</p> <p>津軽鉄道は、生活の足としての役割だけでなく、観光においても重要な役割を担っており、地域の活性化に資する貴重な地域資源です。本計画においても、市の公共交通の骨格となる重要な南北軸を形成する交通モードの1つに位置づけており、現在も、ふるさと納税を活用した支援、津軽鉄道活性化協議会による支援、安全確保に関する施設整備支援等、様々な支援をしております。今後も活性化のための継続した取組が必要と考えております。</p>

11	<p>金木庁舎について、拠点の役割を担うため、庁舎の建て直しだけではなく、庁舎にオープンスペースを設け、金木駅から庁舎、庁舎から斜陽館への歩道・遊歩道を整備するなど拠点として有効利用できる建物になって欲しいと思います。</p>	<p>(その他)</p> <p>本計画において金木庁舎は乗継機能を有するだけでなく、生活・交流機能を併せ持つ地域拠点と位置づけており、交流の要になると考えております。金木庁舎の整備については、観光資源と近接するという特性を活かし、周辺環境と調和のとれた面的整備を進める中で検討していくこととなります。</p>
12	<p>青森市、弘前市、五所川原市の移動にあたり、JRの乗継が不便です。</p> <p>また、駅等の設備も不便なものが多いため、利便性の向上を図って欲しいと思います。</p> <p>具体的内容</p> <p>JR五能線川部駅での乗継、運行本数について、JRリゾートしらかみ号の自由席の設定、五所川原駅に指定席券売機の設置、津軽中里駅のトイレ改修、車椅子用トイレの設置。</p>	<p>(その他)</p> <p>広域路線については計画施策⑤の中で、検討を進めていくこととしており、具体的には青森県の計画、再編事業の取組の中で、乗継の利便性も併せて検討していくこととなります。</p> <p>また、目標に掲げる「誰もが利用しやすい交通の形成」を達成するため、利用促進策の展開を位置付けており、計画の推進管理体制に基づき、必要な関係者を招集し、意見交換を行いながら施策を推進する予定です。</p>
13	<p>冬にバスに乗っているときに気になるのですが、道路を除雪するついでに、バス停の周りのスペースも少し除雪してもらえたらいいなと思います。</p>	<p>(その他)</p> <p>道路の除雪につきましては、特にバス路線、通学路などは優先的に、また、市直営の排雪班を編成しながらバス停付近にも意を用いて取り組んでいるところです。降雪の状況によっては、中々除雪が追いつかず、ご不便をお掛けすることもございますが、今後ともできる限り迅速に丁寧に取り組んでまいります。</p>

担当	五所川原市財政部企画課
電子メール	kikaku@city.goshogawara.lg.jp
電話	0173-35-2111 (内2152～2154)
FAX	0173-35-3617